

【著作物の明細】

- 1、題名 連掛虎ノ巻
- 2、著作者の氏名 遠藤幸助
- 3、最初の公表年月日 平成22年11月12日
- 4、著作物の種類 論文
- 5、著作物の内容 メバル釣り場、生態、食性などを釣り人の視点で観察し解説したもの。
それを基にメバル釣りについて道具、釣り方などについて解説した著作物。
- 6、この著作物を無断で掲載、転用、複製する事を禁ずる。

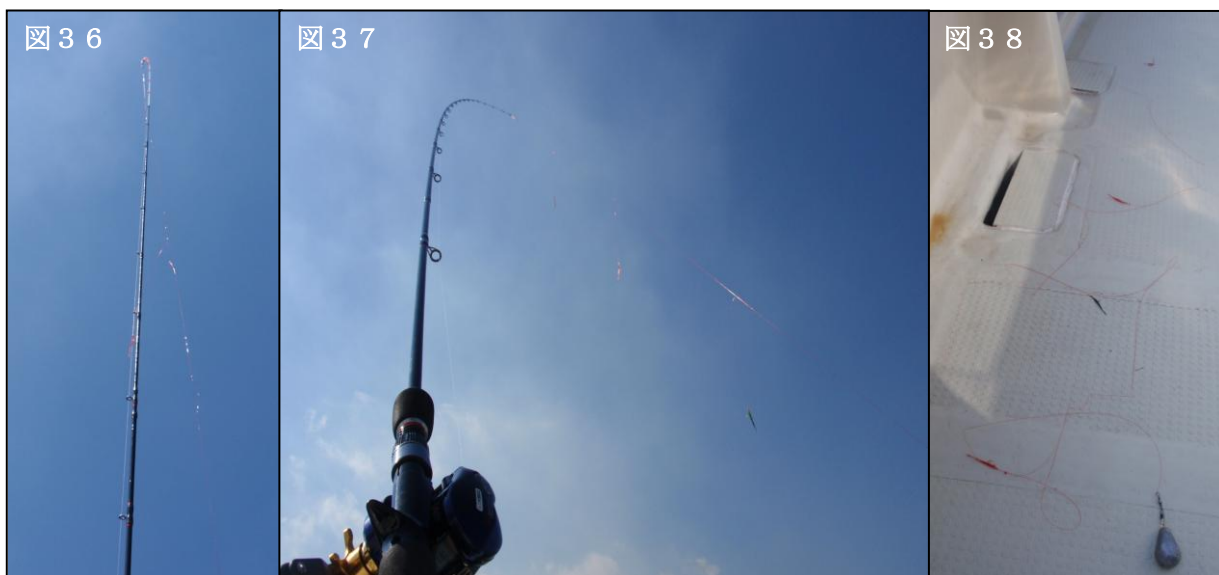
連掛虎ノ巻

4章 連掛け釣法

メバルサビキで釣っている人でも釣り方は餌釣りと同じ誘い方を行っている人が多い様です。特に永年 餌釣りに親しんだ人ほどそうではないでしょうか。サビキを漢字で書くと「疑似針」つまり「ルアー」なのです。2章を読んでもらえば解る通り、どんなに良く出来たサビキでも形状だけでメバルに喰わせる事は困難で、待っているだけではなかなか釣れません。運よく競り状態に出会い釣れても偶然で有り、次もそうなるとは限りません。ルアーは釣り人が操作し命を与えて初めて魚が餌と認識するのです。また連掛け釣法には「四引き」と云う必殺技が有り、これを習得し意図的にメバルを競り状態にさせると連掛けを狙える様になり、群れ全体と勝負している感覚を得る事が出来る様に成ります。連掛け釣法で群れごとメバルを釣り上げると、2kgの大物へ大変身させる事も可能で、芋蔓状態で上がって来る様子は圧巻で細いサビキ仕掛けで渡り合うと、まるで魚雷の様な引き味です。手軽に楽しめるサビキ釣りですが、奥が深く最も難しいメバル釣でその釣技、釣趣は連掛け釣法でしか味わう事が出来ません。知れば知る程 面白く成るのが連掛け釣法なのです。

1、8連サビキの取り扱い

連掛け釣法説明の前に、8連サビキを使った事の無い人に取り扱い方を説明します。8連サビキは全長5.4m有ります。3~4mの竿では仕掛けを穂先まで上げてても手元に3、4本針が余ります。その為 手元で仕掛けが纏れ、穂先に絡んだりし扱いにくい仕掛けです。これを3章の纏れ防止だけで解決する事は出来ません。仕掛け捌きに慣れるには時間が必要ですが、どうしても使えない人は針数の少ない仕掛けを使用して練習して下さい。しかし釣果に大きな差が出るので、早くコツを掴んで8連サビキを使える様に成って下さい。



- (1) 仕掛けを上げた時、竿を立てたままにすると枝針が絡みます。斜めに置きましょう。図36
- (2) 竿を置いた時、仕掛けを竿から離しておく。図37
- (3) 手元に仕掛けを上げる時、針の間隔を開け並べる。図38

連掛虎ノ巻

- (4) 釣り座の足元は片付け道具類は後ろに置き仕掛けを上げるスペースを開けておく。図39
- (5) 撚れて癖のついた仕掛けは、ほどいてもまた纏れるので交換する。
- (6) 1,2 時間たちサビキの皮がチヂレたり変色したら喰いが落ちるので交換する。

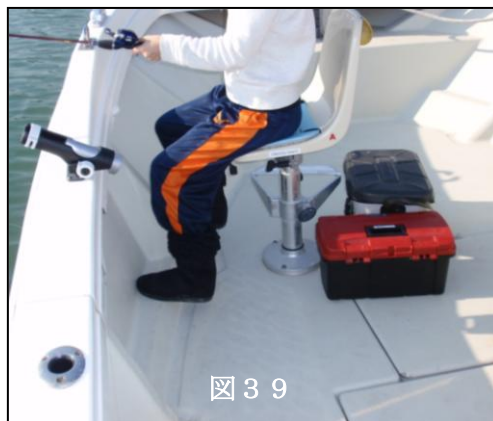
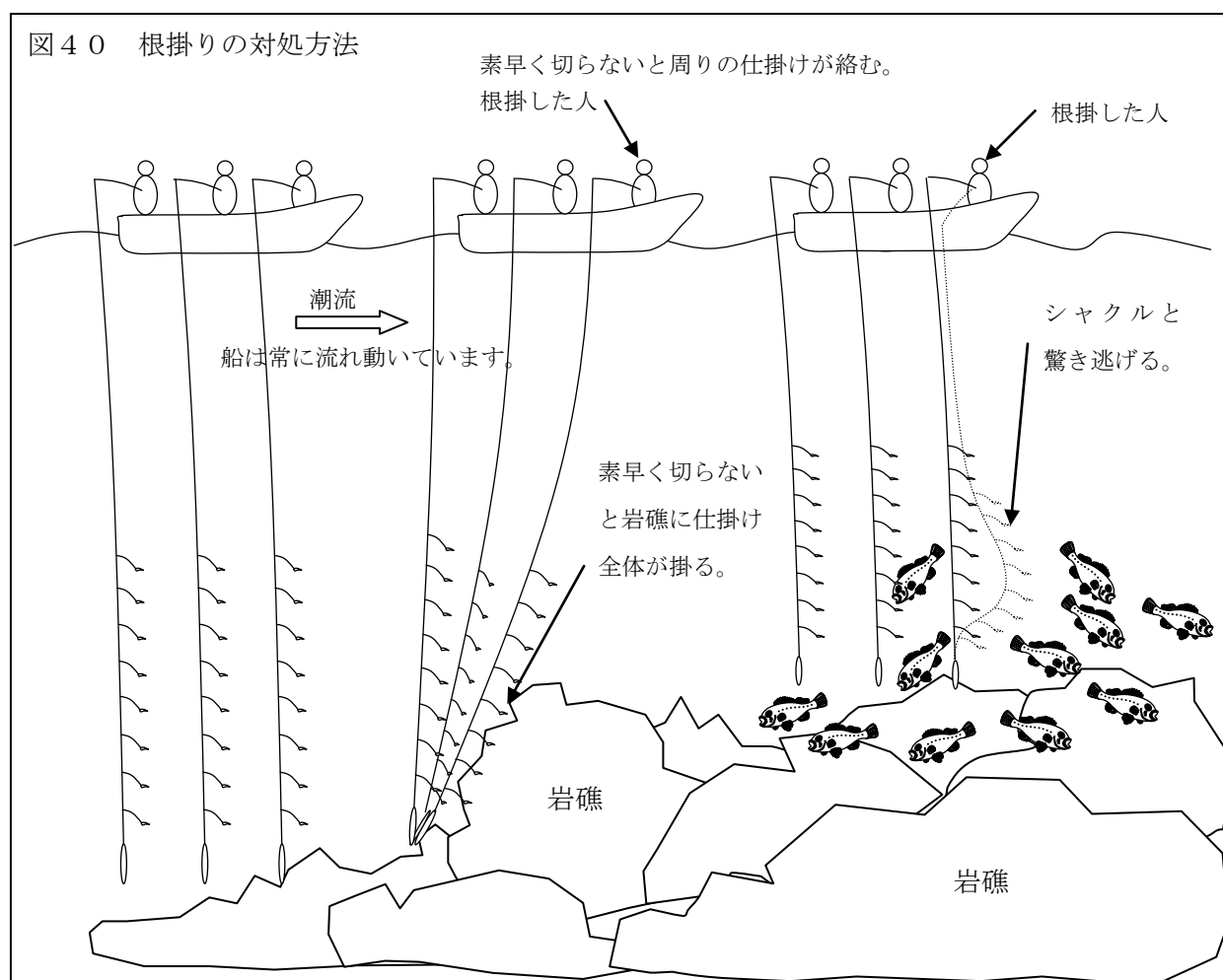


図39

2、根掛の対処方法

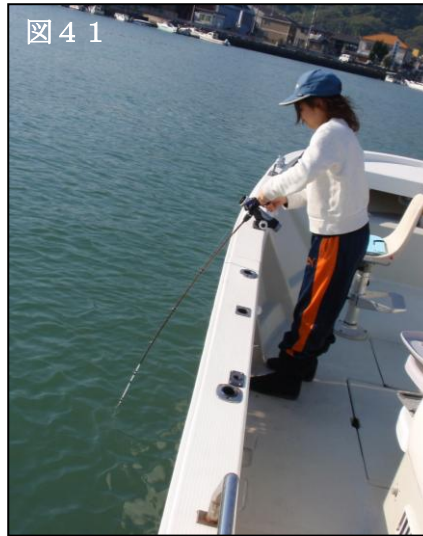
連掛け釣法には乗り合わせた人のチームワークも必要です。大勢で誘いメバルの状態を待ち状態から探し状態、探し状態から競り状態へ上げて行く為にはメバルを驚かせない事が大切です。根掛りした時、竿をシャクリ外そうとするとメバルが驚き釣れ無くなります。根掛したら素早く静かに切りましょう。またモタモタしていると流し釣りなので、根掛りした仕掛けに周りの仕掛けが次々に掛って迷惑になったり、仕掛けの上部や道糸が岩礁に掛り全体が切れ釣り場が荒れてしまいます。根掛した人は躊躇なく素早く切りましょう。図40に根掛りの対処方法を説明しました。互いのマナーで楽しく釣れる様に協力して下さい。



連掛虎ノ巻

(1) 竿を使った切り方

この方法が素早く切れ、手を切ったり、道糸を傷つけないので正しい方法です。図4 1、根掛りしたら竿を下に向け糸を強く巻き取ります。この時、穂先を水中に入れます。図4 2、次に竿を持ち上げると簡単に切れます。糸の巻き込みが足りず、穂先を持って引くと竿が折れるので注意して下さい。



(2) 道糸を持って切る

手で糸を持つ時は手袋やタオルが必要です。糸が滑らない様しっかりと掴まないと手を切ったり、道糸が切れたりするのであまりお勧め出来ません。図4 3、竿をホルダーに置き両手でしっかり糸を掴んで下さい。引く時には船縁に当てない様に上げて下さい。



3、連掛け釣法の釣り方

前書きで述べた連掛け釣法の極意を頭に入れ、ここまで読んで頂けたたでしょうか。極意 其の1「岩礁をイメージし宙を釣る。」 其の2「8連ルアーを群れと化す。」 其の3「先頭を掛け罠にして群れを引き付ける。」いよいよその説明まで進んで来ました。極意の基本に有るのは「サビキ釣りはルアー釣り」です。餌釣りの誘い方に慣れた人もこの釣り方を覚えると必ず釣果が伸び、更に面白く成る事 請け合いです。

連掛虎ノ巻

4章の続きを御覧になりたい方はEメールにて「連掛虎ノ巻4章希望」のタイトルで、akou@orchid.plala.or.jp に連絡下さい。折り返し送信いたします。尚その際、本書の感想やアンケートにお答え頂ければ幸いです。

- 1、お名前 (ふりがな)
- 2、性別 年齢
- 3、釣歴 好きな釣り
- 4、当遊漁船に乗船した事が有りますか
- 5、当遊漁船に乗りたいと思いますか
- 6、連掛虎ノ巻の感想

以上よろしく御願い致します。

遊漁船あこう船長 遠藤幸助

迷掛虎ノ巻

- (1) 底取り
- (2) 上げ誘い
- (3) 極意 其の1 「岩礁をイメージし宙を釣る。」
- (4) 下げ誘い

迷掛虎ノ巻

(5) 極意 其の2 「8連ルアーを群れと化す。」

迷掛虎ノ巻

(6) 巻き合わせ

(7) 落とし合わせ

迷掛虎ノ巻

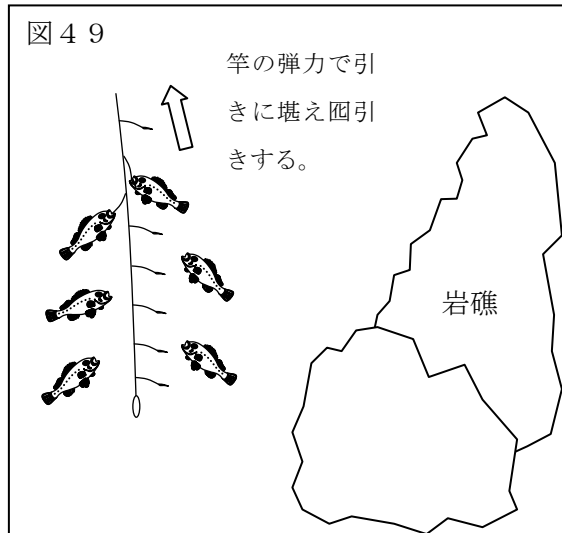
(8) 極意 其の3 「先頭を掛け廻にして群れを引き付ける。」

迷掛虎ノ巻

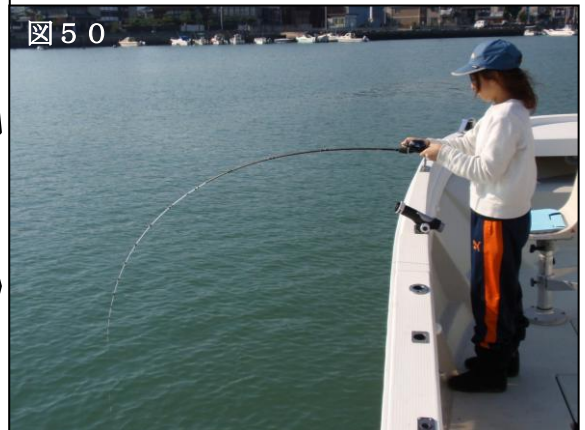
連掛虎ノ巻

(9) やり取り

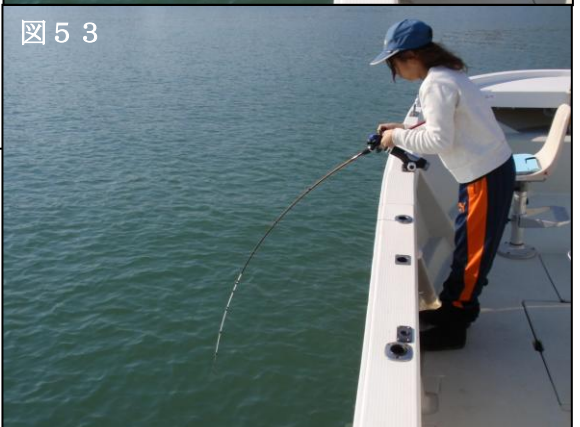
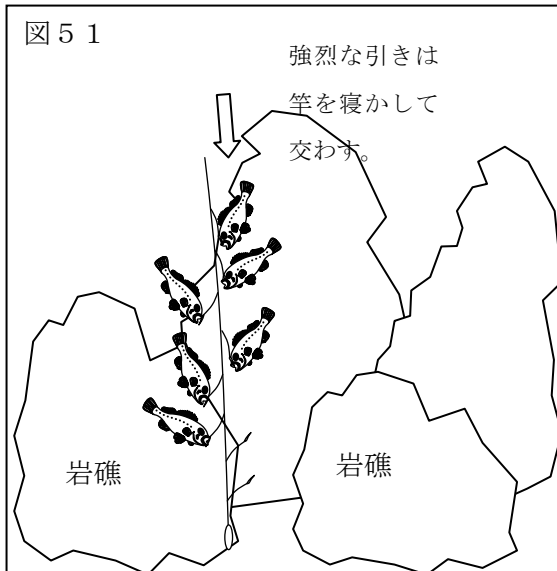
サビキ釣りの標準仕掛けはハリス 0.8 号、幹糸 1.5 号です。この太さで 25～30 cm のメバルを、6 連、7 連、8 連と掛けた時の引きは、幹糸を簡単に切るほど強烈なものです。連掛けの技を会得しても、やり取りの技が無ければ魚雷春告魚と渡り合う事は出来ません。特に中通し竿は摩擦抵抗が大きくドラッグに頼る事が出来ません。またガイド竿でもドラッグだけで引きを交わす事は困難で、連掛けの数が増えるほど竿捌きで凌ぐ高等技術が要求されます。強烈な引きに対し竿を起し引き返すと切れてしまいます。もしも連掛けした状態で仕掛けが切れて沈むと、針に掛ったままのメバルがモガキ苦しみ周囲のメバルが警戒し岩礁に隠れ何も釣れ無く成ります。竿捌きの基本は矯めと送り込みです。図 50 の様に誘いは



に隠れ何も釣れ無く成ります。竿捌きの基本は矯めと送り込みです。図 50 の様に誘いは



水平からやや上向きの構えで矯めを維持して釣ります。メバルが掛った時、竿の弾力で耐えられる引きは竿を動かさず凌ぎ、図 49 の様に罠引きを続けます。連掛けが増え図 52 の様



に更に強い引きが襲って来た時は、図 53 の様には竿を寝かしながら矯めを送り込み引きを交わします。この時、図 51 の様にメバルは岩礁に向き引き込んで居るので、

連掛虎ノ巻

引きが収まったら、図55の様に竿を起し岩礁から離すと同時に、矯めを造り次の引きに備えます。引けば送り、収まれば起こす、の繰り返しでやり取りして下さい。初めの1、2回の引きは特に慎重にやり取りして、引きが収まった隙に出来るだけ岩礁から浮かし、根掛りさせない様になります。巻き上げる時ポンピングをすると竿を下げた時、引きが来ると交わり様が無いので、図55の様に竿を起したまま矯めを維持し、リールの巻き取りのみで上げる様にして突然の引きに、竿で対応出来る様に構えて置きます。



(10) 取り込みは「手繰り上げ」

やり取りの末、遂に眼前へ芋蔓状態でメバルが浮いて来ました。最後の難関が取り込みです。仕掛けを穂先まで巻き一気に上げ様とした瞬間、根元から切れ全てが沈んだ事が有ります。1.5号の幹糸で2kgのメバルを抜き上げるのは不可能ですし、長さ5m以上有る仕掛けで5連、6連と掛けた場合3m程度の竿で上げる事は出来ません。取り込みの手順はメバルが水面に近着き、リーダーが見えたら残り4.5mです。ここで図56の様に竿を



45~60度位に立て水中を良く見ながら一番上のメバルが水面に出た所で、図57の様に幹糸を掴んで竿を置いて、1匹ずつ手繰りながら船に上げて取り込みます。これが「手繰り上げ」です。慣れるまではこの時メバルを落とす事が有りますが、手を止めず仕掛けを緩めない様にするのがコツです。また船に上げた時、並べる様にして仕掛けを纏れさせないのも手返しを良くするコツです。連掛けしたメバルが中小型で、竿で上げられる場合



連掛虎ノ巻

でも「手繰り上げ」の取り込みに慣れれば、手返しが早く成るので是非 身に付けて下さい。

後書き

連掛け釣法は如何でしたか、少しは貴方の参考に成ったでしょうか。細々と面倒な釣り方を説明しましたが、そんな事を覚えなくても沢山居る場所で、天候や潮や餌に恵まれ、時合いに当たる事が出来れば、初心者でも簡単に釣れるのも事実です。メバルファンにとって芸予諸島は樂園の様な場所でメバルの形、数ともに恵まれた沢山のポイントが有る素晴らしい海域です。せっかく樂園に居るのでから釣れた魚だけに喜ぶのでは無く、自分の腕を磨きメバルとの駆け引きに考えを巡らせ、釣りの全てを楽しむ事が出来れば最高では無いでしょうか。連掛け虎の巻がその一助に成れば幸いです。

平成22年 11月 12日
遊漁船あこう船長 遠藤幸助